

浜の風景

ウニ養殖漁業への挑戦！

浜中町役場 課
水産 第 2 号

◎浜中のウニ漁業

浜中沿岸では、昭和三十年代から潜水によるウニ漁業が行なわれ、昭和五十年代には年間三〇〇トン以上を水揚げするなど最盛期を迎えましたが、その後水揚げが激減、休漁に追い込まれるなどウニ資源が枯渇してしまいました。

このため、資源増大対策として昭和六十三年よりウニ二種苗の放流などを行い、漁場の管理を行ないながら資源回復に努めています。

さらに、浜中独自のウニ完全養殖も行われ、平成二十年には五〇トン以上を水揚げし、「育てる漁業」として今後も期待されています。



◎ウニ養殖のはじまり

ウニ完全養殖は、昆布漁場の荒廃が進み昆布の水揚げが減少、漁家経営がひっ迫している対策として、平成四年に火散布沼で試験実施したの



技術を向上させ、養殖漁業として確立されました。

また、浜中湾、琵琶瀬湾においても、平成十三年から行なわれ、平成十五年には十勝沖地震津波の被害を受けながらも、養殖を始めて二年後には水揚げを行ない、その後も養殖技術の研究開発が図られ、こちらも養殖漁業として確立されました。

◎ウニ養殖のすがた

養殖で使用するウニ二種苗の生産は町内では行っていませんので、町外で生産された種苗を養殖施設に設置



している円筒型育成カゴで育てます。種苗の大きさは搬入時期などで違い、五〜二〇ミリ種苗を出荷サイズである四五ミリに成長するまで飼育します。カゴのなかでエサである昆布を与えながら一定程度に成長すると別のカゴに移し替えながら分散を繰り返して、五ミリサイズの種苗で二年から三年、二〇ミリサイズの種苗で一年半から二年飼育して出荷します。

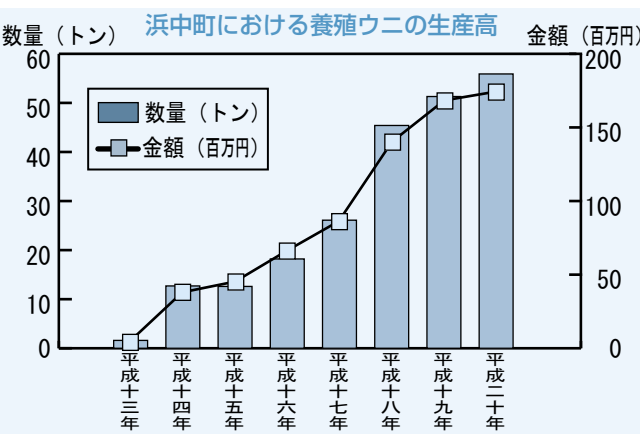
養殖サイクル・フロー図

	半年	1年目	2年目		3年目
	11月	4月	4月	9~11月	~5月
	育成0ヶ月	5ヶ月	17ヶ月	22~24ヶ月	~30ヶ月
	育成開始	分散籠交換	分散籠交換	選別	出荷
				集約	出荷
籠目合	5mm	10mm	25mm		
収容数	10,000個/籠	2,000個/籠	1,000個/籠		

◎養殖ウニの特色

養殖のウニは、身色も黄色で大きさも均一しています。これはエサを昆布のみとしているため、ウニ本来の甘い味わいとほんのり昆布風味が絶妙にマッチされています。

また、需要に応じて出荷できるメリットもあるため、潜水ウニと比較すると高値で取り引きされています。



◎養殖ウニの課題

養殖技術はおおむね確立していますが、大雨による低塩分対策や時化などのリスク回避、外部刺激によるへい死などの課題もあります。さらなる技術確立に向けてウニ漁業者の奮闘が期待されています。